

新型コロナウイルス感染症における医療倫理上の課題

函館市医師会
道南勤医協函館稜北病院

堀口 信

私が勤務する病院は2病棟104床の小規模病院です。急性期病床、地域包括ケア病床と回復期リハ病棟があります。

函館は8月13日現在、7月29日を最後に新型コロナウイルスの新規感染者は報告されていません。当院での診断や治療事例もまだありません。それでも緊急事態宣言下では入院の面会禁止を行い、職員の行動制限も行ってきました。

新型コロナウイルス感染症は、指定感染症であり、入院など患者の諸権利が制限されることとなります。さらに、医療資源配分の優先順位や、どこまで治療を行うべきかという深刻な倫理的問題も内包しています。

当院では2003年より今まで100回を超える医療倫理委員会を定期的に開催して、終末期医療や個人情報保護など、小規模病院にもある医療倫理をとりあげてきました。そこでの経験もふまえて、新型コロナウイルス感染症での医療倫理上の課題を整理してみました。

1. 不足する物的・人的医療資源の配分（いわゆるトリアージ）

不足する物的・人的医療資源、たとえば人工呼吸器やECMOを使用する患者の優先順位の決め方には、医療者の個人的価値観が入り込む余地のないルールが必要です。一般的には、救命の可能性が高い患者や時間的優先順位（早くに治療方針が決まった患者が優先）に基づき判断することになります。しかし、先に人工呼吸器をつけても、救命の可能性が低い人から、あとに入院し、救命の可能性が高い人に呼吸器を付け替える場合、「呼吸器はずし」という法的、倫理的に難しい問題を含んでいます。この場合は倫理委員会の審査や病院管理者の許可など、担当医師・スタッフに心理的負担をかけないルールが必要とされます。

2. DNAR（心肺蘇生法を試みない事前指示）

心肺停止時の蘇生法（人工呼吸の開始もしくは継続、心臓マッサージ）の実施について、本人や家族の意向を尊重することは、一般の医療と同様です。ただし、本人が隔離されて家族と面会できない環境で、かつ物的・人的資源の不足下では、病院があらかじめ準備した、DNARの標準的手順を事前開示して、入院早期に同意を得る方法もありえるでしょう。たとえば、できうる限りの治療の結果、救命困難と複数の医師が判断した場合、心肺停止の場合は、心肺蘇生法を試みないことを標準にするなどです。

3. 延命治療

救命困難と判断されつつ、心肺停止までの期間を延ばす目的の治療、いわゆる延命治療をどうするかも、DNAR同様に、本人、家族の意向を尊重する必要があります。人工呼吸器など限られた医療資源の使用は別として、栄養確保や薬物投与目的の点滴や酸素投与などがここでいう延命治療にあたります。本人が延命治療を望まない場合であっても、苦痛を取り除くことや、尊厳ある個人としてケアを受ける権利は保持されるべきです。

4. 高齢者施設での治療制限

以上みてきた物的・人的医療資源の配分やDNAR、延命治療は入院治療を想定したもので、高齢者施設にそのまま適用することはできません。高齢者施設では「できうる限りの医療」や「人工呼吸器の選択」は難しく、治療に大きな制約があるからです。高齢者施設に入所する際に、施設でできうる医療の限界を説明したり、DNARの希望を聴取していたとしても、新型コロナウイルスに感染した場合、入院せずに施設内隔離とするには、あらかじめ本人や家族の同意が必要になるでしょう。

5. 看取りについて

新型コロナウイルス感染者は看取りの場面でも家族の立ち会いは大幅に制限されます。そのためITを使って家族と会話したり、スタッフが看取りに立ち会うなど、できうる限りの工夫はされていると思います。それでも看取りに立ち会えず、通常のように遺体を引きとることもかなわない家族へのグリーフケアには特別の配慮が必要になるでしょう。

6. 個人情報の保護

感染拡大を防ぐため、公衆衛生の見地から、感染者に関する情報（性別、年齢、職業、大まかな住所、行動履歴、受診した医療機関）の一部が公開されるか、公開されずともネット上に情報が漏洩することがしばしばあります。いったん個人情報が流布された当事者や周辺の人たちが、差別的言動、脅迫を受けたケースも報道されています。感染拡大予防で必要な公開情報（クラスターが発生している施設や病院名）と、統計上必要な個人情報（性別、年齢、職業、居住地など）を区分し、公開する個人情報は可能な限り限定することが望ましいと考えます。

以上、新型コロナウイルス感染者とその家族を中心に医療倫理上の課題を挙げました。これ以外にも、感染していない入院・外来患者や介護サービス利用者が受ける制限、医療介護従事者へのバッシングなどさまざまな問題が起こっています。

パンデミックの中にあっても、医療の方向を見失わないよう、医療倫理の4原則（自律尊重、無危害、善行、正義＝公平）に立ち返って行動することが何より大切だと思います。